

# 農業委員会だより

## 第18回きたかみ農業フォーラム —家庭と地域で広げる 食育の輪—

第18回きたかみ農業フォーラムは12月7日、さくらホールで開催されました。今年「食育」「食農」の大切さを学び、地域農業が果たす役割についての理解を深め、どう取り組んでいくべきかを基調講演や活動事例発表を通して意見交換を行いました。

当日は、農家の皆さんや農業関係者が多数集まり、熱心に耳を傾けていました。高橋久悦会長の主催者あいさつに続き、農業者表彰が行われ、3人に表彰状と記念品が贈られました。基調講演では、講師である宝井琴梅氏が、自らの農業体験、食の



基調講演講師の宝井琴梅氏

安全・安心、食料自給率などについて、ユーモアを交えながら切実に訴えていました。

活動事例発表では、家庭や生産者の立場で、市農業委員の佐藤光子氏が「家庭における食育の果たす役割や子供たちと地域住民が一緒になって取り組んだ食農体験活動」、学校の立場で、黒沢尻東小学校栄養教諭の中野千春氏が「食に関する指導のあり方の研究と食育モデルプランの試行授業結果」、行政の立場で、紫波町農林課の藤尾智子氏が「食育推進基本計画の策定経緯と取り組み状況」、販売者の立場から、地産地消の仕事人として農水省から選定され

### 農業者表彰 おめでとうございます 青年農業者表彰



青年農業者表彰  
多田 徹さん  
(成田・38歳)



農業者表彰  
及川幸男さん  
(和賀町藤根・61歳)



農業者表彰  
佐藤 功さん  
(相去町・59歳)



事例発表をする市農業委員の佐藤光子さん

た(株)JAシンセラの佐々木廣氏が「地元産食材の利用拡大に向けた仕組みづくりと産直施設が地域活性化に果たす役割」について、それぞれ報告されました。

その後、宝井氏と県南広域振興局北上総合支局相津成蔵農林部長をコメンテーターに、活動事例発表者4人をパネラーとして活発な意見交換が行われ、閉会しました。

わたしたち農業委員は、皆さんからいただいたご意見、アンケートを基に北上市農業の発展と農業所得の向上および地域活性化のため、安全な食料供給ができる環境づくりに努めてまいります。

(農業委員 小田島徳幸)

## 認定農業者との 意見交換会

認定農業者との意見交換会は1月

26日から2月3日まで、JAいわて花巻の市内6地区営農センターエリアごとに開催されました。これは、地域農業の中心的な担い手である認定農業者との意見交換会で、農業関係機関・団体職員を含め209人が参加しました。

交換会開催にあたり、認定農業者を対象にアンケート調査を実施しました。その結果を基に開催した意見交換会では、次のような多くの意見が出されました。

- ① 農地集積に向けた対応策について
- ② 集積情報の把握とあわせ
- ③ 農地流動化奨励金の交付 ほか
- ④ 食料自給率向上対策について
- ⑤ 食育、食農の推進
- ⑥ 地産地消の拡大 ほか
- ⑦ 意見交換会のあり方について
- ⑧ 認定農業者の参加をもっと多く
- ⑨ アンケート調査結果の活用策 ほか
- ⑩ 農業関係機関のワンフロア化
- ⑪ 市、農協、県および普及センターのワンフロア化の早期実現 ほか

農業委員会では、これらの内容を北上市の農林業施策や国・県への農林業施策に反映させるべきものに区分整理し、建議・要望項目として提言し、実現に努めていきます。

(農業委員 上野 温)

■審議データ

農地の権利移転・利用権設定審議内容

農地法	審議件数		
	12月	1月	2月
3条	11	3	22
	185,854	92,358	71,099
4条	3	1	5
	5,094	647	3,900
5条	9	4	10
	7,531	4,148	3,783
適用外 証明	2	0	4
	152	0	1,688
農用地 利用集積 計画	36	23	42
	281,413	220,097	243,298

- 農地法3条…農地の所有権、賃借権などの権利を設定または移転する場合
- 農地法4条…自己所有農地を転用する場合
- 農地法5条…農地の所有権、賃借権などの権利を設定または移転して転用する場合
- 農地法適用外証明…農地を20年以上他の目的に使用しており農地の復元が不可能な場合
- 農用地利用集積計画…農地の所有権、賃借権などの権利を設定または移転する場合で受け手側が大規模農家の場合

■これからの主な行事

- 4月21日(火) 農地部会・農政部会  
農業委員会総会
- 5月21日(木) 農地部会
- 5月26日(火) 農政部会
- 6月23日(火) 農地部会
- 6月25日(木) 農政部会

お知らせ

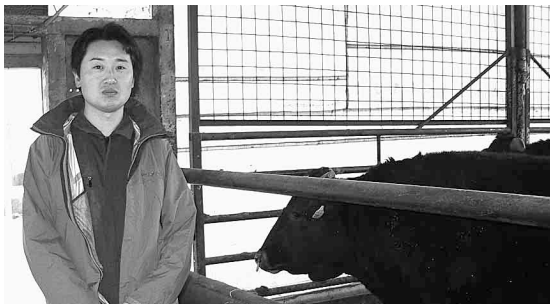
昨年の9月2日から12日まで実施した、耕作放棄地の全体調査結果は次の通りです。

- ・調査対象面積 99㌥
- ・復元済農地 4㌥
- ・容易に復元可能農地 15㌥
- ・整備により復元可能農地 16㌥
- ・非農地 64㌥

今後、耕作放棄地対策のための地域協議会を組織し、本結果内容を検討の上、解消計画を策定し、耕作放棄地の解消を進めていくこととなります。

がんばる青年農業者

牛舎での高田さん



高田直樹さん  
(30歳・二子町才の羽々)

高田さんは、大学卒業後、2年間の研修を経て就農し、現在は父親と一緒に繁殖牛16頭、肥育牛180頭の和牛経営に取り組んでいます。いわて牛枝肉共励会、県後継者枝肉共励会で名誉賞を受賞するなど、数々のイベントで優秀な成績を残してきたかみ牛を代表する和牛肥育経営の後継者として頑張っています。地域では、有機農業にも積極的に取り組み、稲わらと堆肥との交換・散布を通して二子米生産に寄与し、才の羽々農業生産組合に参画しています。今後の目標として、県の担い手育成基金事業を利用し、繁殖技術の向上を図りながら市内の和牛肥育後継者との連携を深め、より一層の研さんを積んでいきたいと語っていました。(農業委員 杉澤健友)

こうじ作りから  
みそ作りへ

生活研究グループは12月6日、親子みそ作り実習をJ Aいわて花巻和賀町支店「いきいきハウス」で開催しました。

この実習に備え、女性農業委員3人が、みそ作りに欠かせない「こうじ」を江釣子多目的研修センターで作りました。

当日のみそ作りには父親参加の2組を含め10組の参加があり、生活研究グループの指導員からの説明を受け、作業を開始しました。前日から大きな鍋に浸した大豆を2時間半ほど煮たて、それをつぶし、塩とこうじを入れ、混ぜ合わせて10カ月寝かせればみその出来上がりです。つぶした豆がペースト状になって出てく



みそ作り実習に向け、こうじ作りに励む女性農業委員

るのを不思議そうに見ていた子どもたちが、「これがみそ汁になるんだね」と話していたのが印象的でした。また、若いお母さんから「初めての体験です。このような機会をもう一度作って欲しい」と話され、もっともっと生産者の顔が見られる地産地消の拡大に取り組みなくてはという思いでした。(農業委員 佐藤光子)